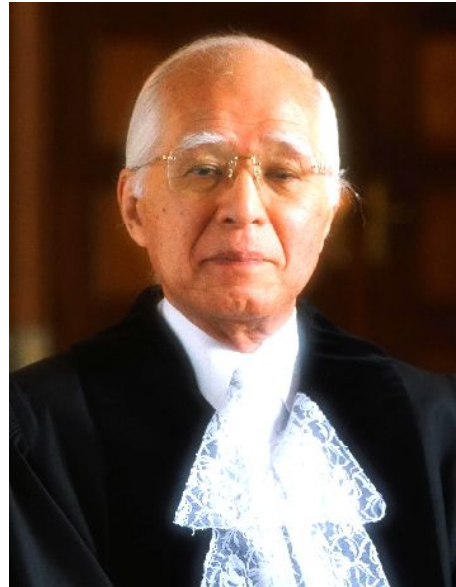


略歴

氏名： 小和田 恆 (おわだ ひさし)

現職： 国際司法裁判所所長
(2009年～、判事としては2003年～)
常設仲裁裁判所国別裁判官団判事
(2007年～)



●学歴

1932年生まれ、1955年に東京大学卒業、その後ケンブリッジ大学大学院修了、早稲田大学名誉博士（法学）。

●外務省における職歴

1955年に外務省に入省。入省以来外務省勤務を通じて、本省（条約局法規課、条約課長、条約局長）、在外（国連第六委、国連友好関係特別委、宇宙平和利用法律小委、深海底平和利用委等の代表）において、国際法分野で一貫して活動してきた。参加した主要な国際法分野における国際法会議としては、1960年第二次国連海洋法会議、1968-1969年国連条約法会議、1979-1982年第三次国連海洋法会議、及び1998年国際刑事裁判所設立外交会議がある。外務大臣秘書官（1971-1972年）、総理秘書官（1976-1978年）、外務審議官（1989-1991年）、外務事務次官（1991-1993年）を務めた。また、特命全権大使として、OECD日本政府代表（1988-1989年）、国連日本政府常駐代表（1994-1998年）及び安全保障理事会議長（1997、1998年）を務めた。

●学会における活動

外務省における勤務に加えて、学会活動として、東京大学非常勤講師（1963-1988年 ただし在外勤務中を除く：国際法、国際機構論）、米国ハーバード大学法学部客員教授（1979-1981年、1987年、1989年、2000-2002年：国際法）、ニューヨーク大学法学部客員教授（1994年-1998年）及びコロンビア大学法学部非常勤教授（1994-1998年）を務める。ハーグ国際法アカデミー教授（1999年）、早稲田大学大学院教授（2000-2003年）、ライデン大学名誉教授、広島大学学術顧問、万国国際法学会（L'Institut de Droit International）会員、国際法協会日本支部理事、日本国際法学会名誉理事、米国国際法学会名誉会員、アジア国際法学会理事（2007年～）。

●著作・論文

国際法及び国際関係の分野で著作、論文多数。国際法分野における著作として、"The Practice of Japan in the Field of International Law"（共著、1984年）のほか、論文として「国際機構の規範定立行為と国内法制—統治権能の国際的配分に関する一

試論」(『国家管轄権—山本草二先生古希記念』1998年)、「条約法における留保と宣言に関する一考察」(『国際法、国際連合と日本—高野雄一先生古希記念論文集』1987年)、「ニカラグアに対する軍事的活動事件—管轄権及び受理可能性」(国際法外交雑誌、1986年)、「ニカラグアに対する軍事的活動事件—仮保全措置指示要請」(国際法外交雑誌、1985年)、「国際刑事裁判所設立の意義と問題点」(国際法外交雑誌、1999年)、「座談会 アジア国際法学会の設立と今後の展望」(法律時報 79(12)、96-111、2007年)、「Justice and Stability in the International Order」(*The Japanese Annual of International Law*, 1996)、「Annual Review of Japanese Practice in International Law」(*The Japanese Annual of International Law*, 1961-1988)、「Some Reflections on the Problem of International Public Order」(*The Journal of International Law and Diplomacy*, Kokusaiho Gaiko Zassi vol. 102(3), 343-372, 2003)、「Reconceptualization of the International Rule of Law in a Globalizing World」(*Japanese Yearbook of International Law*, vol.51, 3-20, 2008)等がある。その他の分野における著作として、「創造から参画へ—日本外交の目指すもの」(1994年)、「外交とは何か」(1996年)、「国際関係論」(共著、2002年)、「平和と学問のために—ハーグからのメッセージ」(共著、2008年)等。